

竹とんぼを気持ちよく飛ばしたい ～高く 長く 美しく『私の追究』②～



夏休みが明けた初日の休み時間。久しぶりに子どもたちと竹とんぼを飛ばして遊んでいると、「みんなで竹とんぼ飛ばす大会やるのも面白そうだね」という話が出てきました。「どうしてやりたいと思ったのかな」と問いかけてみると、3人は、「私は、今まで竹とんぼを作ってきて、それをみんなで思いっきり飛ばしてみたいんだ」、「私はもっと遠くに飛ばしたい。みんなはどれくらい飛ぶのかなって思ってる」と話しました。そして少し考えた後、Sさんが付け加えるように、こう話しました。



「私は、競い合いたいけど、戦いたいわけじゃない」



クラスの子もたちと、この言葉の意味を考えてみました。そして分かったのは、「Sさんは優劣をつけたいわけじゃない。友達と競い合ったときに、あなたの竹とんぼに、どんな工夫があるのか、あなたがどうやって飛ばしているのかを知りたいんだ」ということでした。すると子どもたちは、「だったら「大会」じゃなくて「記録会」の方がじっくりくる」と言って「竹とんぼ大会」から「第一回『互いに伸びあおう 竹とんぼ記録会』」に名前を変えて実施することに決めました。そして「距離部門」、「高さ部門」、「滞空時間部門」、「キャッチボール回数部門」をつくり、記録会に向けて、これから新しく竹とんぼを作ったり、今までの竹とんぼをもっと上手に飛ばせるように練習したりしていきました

竹とんぼ記録会を経て、もっと高く、長く、美しく飛ばしたいと願うようになった子どもたちは、「国際竹とんぼ協会」の会長、高橋達郎さんとの出会いをきっかけに、竹とんぼの奥深さに触れ、追究をさらに加速させていきました。

高橋さんからいただいた竹とんぼは今までわたしたちが作っていたものとは、まるで違っていました。それは、空を飛ぶために必要な科学が、ここに全て詰まっているかのような竹とんぼでした。軸を手で挟み、回してみると、そのエネルギーが確かに手のひらを伝わってくるのが分かります。竹とんぼを机の上で逆さまにしてコマのように回すのが好きな



子どもたちが試しに、そっと回してみると、いつまでも回り続けるのでした。「軸が全然ぶれない」「なんでこんなにバランスがいいんだろう」そんな声が聞こえてきました。グラウンドに行って、高橋先生の竹とんぼを飛ばしてみると、その高さは想像を超えていました。竹とんぼは、その姿を見失ってしまうくらいまで天に上がっていくのでした。また、別の竹とんぼは、いつまでも空中に浮いていて落ちてきません。時間にして10秒ほどなのですが、子どもたちにとって、今まで感じていたどの10秒よりも長く感じているようでした。



子どもたちは今、高橋さんからいただいたような「スーパー竹とんぼ」に近づけるように追究を続けています。先日はZOOMで高橋さんとの交流も実現し、たくさんのアドバイスをいただきました。その後子どもたちが作り上げた竹とんぼは、高さでは体育館の天井にまで届くものになりました。また滞空時間では7秒間を記録し、キャッチボールのように飛ばした竹とんぼを飛ばしたり受け取ったりするキャッチ竹とんぼでは200回以上の記録を出すペアも出てきました。ただ、子どもたちは記録だけにこだわっているわけではありません。「バランスがいいと、上へ糸で引っぱられているみたい

にスーッと行きます。すごいいい音とすごい速さで行きます。一瞬のことだけどもちゃくちゃ気持ちがいいです。」と振り返りに書いたIさんのように、竹とんぼの手応えに喜びを感じながら、その手応えを求めて今日も作り続けています。作るほどに奥の深さが分かってくる竹とんぼ。わたしたちの追究はまだ終わりません。